

白石市 白石市立大鷹沢小学校(総合的な学習の時間)「団七踊り引き継ぎ式」

○市町名 白石市

○学校名 白石市立大鷹沢小学校

○期 日 令和5年12月8日(金)

○内 容

総合的な学習の時間(4・5・6学年)

「団七踊り引き継ぎ式」

- ・大鷹沢地区の伝統芸能である「団七踊り」の伝承を通して、地域文化及び地域人の絆を大切にし、伝統を守ろうとする態度を育てる。
- ・6年生から4年生への伝統の継承を行い、異学年間の協働的な学習の構築を図るとともに、異学年交流により児童の主体性や思いやりを育む。

○講 師

白石市民謡民舞保存研究会

大庭 定男 氏(児童への励ましの言葉)

専念寺 住職

徳力 祐弘 氏(団七踊りの由来講話)

○児童の声

- ・ぼくは4年生の時、引き継ぎ式の日には学校を休んでいて、引き継ぐ役ができませんでした。今年は引き継ぎ式に参加できてよかったです。今度は伝統を守っていく立場になって、約40年続く団七踊りを守っていきたいなと思いました。

今度は踊りを教えたり広めたりする立場になります。大鷹沢小学校の伝統を、いろいろな人に広めていきたいなと思いました。

(5年 大槻 来叶さん)



- ・「団七踊り引き継ぎ式」を終えて、感じたことが2つあります。

1つ目は、6年生から4年生に、伝統がしっかりと引き継がれてよかったということです。引き継ぎ式当日は、4～6年生が全員そろって参加できて、6年生から4年生に、「剣」、「くさがりがま」、「なぎなた」が無事に引き継がれました。

2つ目は、団七踊りを踊っていて難しいと感じたことです。ぼくは団七役で、くさがりがま役と剣を交える場面があります。その時、次の動作に移る時のタイミングが難しいです。6年生になるまでに、完璧に踊れるようになりたいです。

(5年 遠藤 大翔さん)

- ・「団七踊り引き継ぎ式」を振り返って、5年生の3人には自信を持って踊りを引き継ぐことができると思いました。ぼくたち6年生から踊りの道具を引き継いで4・5年生が踊った時、しっかり踊っていたからです。宮城野役の人たちは、ぼくが4年生の時よりも上手だと思いました。細かい動きや団七役と信夫役と一緒に動く時のタイミングを合わせることができたら、4年生ももっと上手になると思います。ぼくたちが先輩から引き継いだこの伝統を、これからも守ってほしいと思いました。

(6年 北本 悠真さん)

- ・「団七踊り引き継ぎ式」で、4・5年生が踊っているのを見て、うれしくなりました。先輩から引き継いだ伝統を、無事に後輩に引き継げたからです。もう一つうれしかったことは、4年生がぼくたちのように役になりきって踊っていたことです。ぼくたちが教えたように踊っていたり、アドバイスした所を1日で直したりしていました。こんなに早く覚

えられるとは思わなくて、おどろきました。来年の5・6年生にも、団七踊りを大切に踊ってほしいです。

(6年 菊地 蒼空さん)



- ・ 「団七踊り引き継ぎ式」では、無事に引き継げるか少し心配ではあったけど、4・5年生の踊りを見て「無事に引き継げたな。」と思いました。私は司会を担当していて大変だったけど、しっかりと進行できてよかったです。

後輩たちには、しっかりと役になりきって、責任を持って踊ってほしいです。私たちが卒業した後も、団七踊りを引き継いで、引き継がれて…を繰り返して、大鷹沢小学校の伝統が100代先も続いてほしいと思いました。

(6年 八島 奈美さん)

○講師から

今から300年前ぐらいの出来事です。昔なら、お侍に手打ちにされたら泣き寝入りする以外なかった時代に、娘の無念をくんで仇討ちをさせた殿様も偉かったと思います。宮城野と信夫、2人の娘たちも、相手をただ恨むのではなく、親に対する敬愛と団七という侍への敬意を忘れず、仇討ちが成功した後には父母だけでなく団七の墓参りもしていることからその偉大さが伝わってきます。2人のこの親孝行の心を今も大鷹沢小学校の子供たちに引き継いでもらい、また、先輩から後輩へ繋がる絆を大切にしている事に感銘を受けています。

(徳力 祐弘 氏)

毎年参加させてもらっているけれど、本当に6年生の踊りはすばらしいと思っています。そして、何より、下の学年の4年生がそれをしっかり引き継いでいるところを見せてもらいました。これからも、この踊りを繋いでもらって、地域の伝統文化として大切にしていってほしいと思います。がんばってください。

(大庭 定男 氏)



○教職員の声

本校児童は低学年のうちから先輩の踊りを見学したり、地域学習で「白石噺」発祥の地である八枚田を訪れたりして「団七踊り」への関心を高めていきます。4年生の後半になると、いよいよ先輩から団七踊りを引き継ぐ時期となり、「伝統を引き継ぎたい。」「先輩のように踊りたい。」という思いが練習の様子にも表れます。6年生は引き継ぎ式を最後に、2年間使った衣装や踊りの道具を後輩に引き継ぐため、真剣に練習に付き合います。「団七踊り引き継ぎ式」を迎えるまでに、児童は数年をかけて地域の事や団七踊りの由来を知る学習を行い、その過程を経て先輩から踊りを教えてもらいます。引き継ぎ式は毎年の行事ですが、児童と地域との関わりや伝統を大切にしているからこそ「先輩から後輩へ」という絆が生まれるのだと思います。

(5・6年担任 佐藤 由那 先生)

○教育事務所から

地域の伝統芸能の継承をとおして、大切な思いや志も引き継がれているすばらしい取組が、今後も続いてほしいと願っています。